

菊の会だより

踊る・おどる・躍る
心踊る人生

今、新しい時代の
民族芸術の創造に
情熱を燃やしています

[発行]

舞踊集団 菊の会
代表 畑 道代

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
TEL 03-5983-6001 (代)
http://www.kikunokai.co.jp/



長唄「乙女竹」を踊る、畑道代

名前や地位、型を欲しがると、今の中こそ舞踊は存在する。好んで支えて行く人たちが力を合わせ頑張っています。本年もまた変わらぬご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

新春のお慶びを申し上げます。

舞踊集団 菊の会

代表 畑 道代

新たな年を迎え、益々御健勝の事と存じます。菊の会もお陰をもちまして創立27周年を迎えました。昨年、春ごろから今迄になかった程の忙しい日々を送ることとなり、あつという間に新年を迎えたように思います。様々に大きく変化する時代に取り残されたい様にと努力するうちに、お陰様で作品にも恵まれ、又、人にも恵まれ、年間を通じて各地域で菊の公演を度々行わせて頂く様に成り心から感謝しております。しかしその一方で、いつしか大事なものを見過ごしていたり、見失っているのではないかと振り返り、反省する今日この頃です。そして、これからの道、菊の会の歩むべき道を考えました時、これから舞踊を習得するために一人一人が、いかに奮闘の稽古を重ねるかに思いをいたさねばと腹を決めています。そのためには、時として菊の会の方向性がわかりづらくなる事もあるかもしれませぬ。名前や地位、型を欲しがると、今の中こそ舞踊は存在する。好んで支えて行く人たちが力を合わせ頑張っています。本年もまた変わらぬご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。



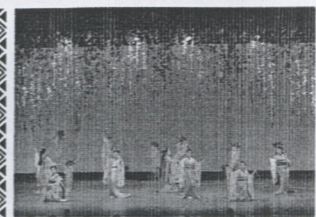
躍進 舞踊集団 菊の会

舞踊芸術 井上道代

「菊の会」創立27周年の新春、おめでとございます。皆様のご健闘を心よりお慶び申し上げます。4半世紀を越える日進月歩の道程は会の代表・畑道代さんのためまざる努力と熱いパワーの軌跡でもあらうと今更ながら一歩を行く人の激しい人生を思い胸を熱くしております。菊の会という「舞踊集団」の公演を観るたびに深い共感を覚えるのは、団員の一人一人に培われている「和の精神」です。舞台の雰囲気、えもいわれぬ暖かさです。「調和」という意味の美しさを実感させてくれるのです。毎年、東京新聞社主催の舞踊コンクールでも団員の幼少期から古典の基礎を体得、日舞の尾上菊乃里としての演技力も豊かな畑道代さんの教育のたまものといえましょう。「菊の会」と私との出会いは二十数年ほど前のこと。三隅治雄先生、高橋秀雄先生のご紹介を頂いて文京公会堂で菊の会の小さな子供達の群舞「仔鹿も躍れ」を観たのが最初でした。顔を真っ赤にして無心に躍る群舞は、神々しく見えるほど美しく、泣き虫の私は涙が止まらなくて困りました。あの時の仔鹿さんたちが今や「菊の会」の幹部に成長、リーダーシップをとる立場で活躍の由、まもなく二十一世紀、不安な時代がつづきそうですが、皆々様のご精進を信じております。年頭のご挨拶に代えて

第24回 教室発表会 日本のおどり

で助師の人達も助師としての演目は勿論のこと、それぞれの演目で、できこまかに舞台を務められる様になった。年輩の男性が「普通、教室発表会」といって友人友人だけの演目を観て帰ってしまう観客が多いが、菊の会では、ほとんどの人が最後まで楽しんで観ている人が多い。



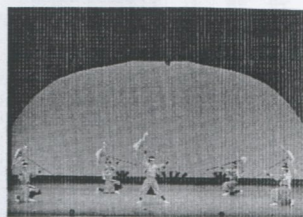
「藤娘」ひまわりグループ



「イヨマンテ」若獅子グループ



「胡蝶」中杉教室



「傘踊り」千寿会

Kikunokai
Yearly Schedule '99

今年の菊の会 公演予定

- 1月 九州大分公演
杉の井ホテル
- 3月3日 京都八瀬研修所
『おさらい会』
- 5日〜7日 東京アトリエ公演
- 12日〜14日 東京アトリエ公演
- 5月5日 子供のための『さつき会』
府中ふるさとホール
- 8日、9日 『菊の会舞踊選集』
戸田市民会館
- 19日 尾道市公会堂
20日 宇部渡辺翁記念会館
- 21日 米子市公会堂
22日 萩市民会館
- 27日〜30日 京都八瀬公演
『日本のおどり』(予定)
- 6月11日〜13日 東京アトリエ公演(予定)
- 18日〜20日 東京アトリエ公演(予定)
- 7月 菊の会自主公演(予定)
- 8月6日 『第25回菊の会 教室発表会』
なかのZERO大ホール
- 26日〜29日(予定) 京都八瀬公演
舞踊劇 『カッチャ行かねか この道を』
- 11月11日〜14日 京都八瀬公演(予定)
- 12月2日 越谷コミュニティセンター大ホール
3日 新宿文化センター大ホール
- 4日 志木市民会館(予定)
- 5日 川越市民会館
やまぶき会館(予定)
- 10日 所沢市民文化センター(ミュージズ)
- 11日 日野市民会館
- 13日 江戸川総合文化センター

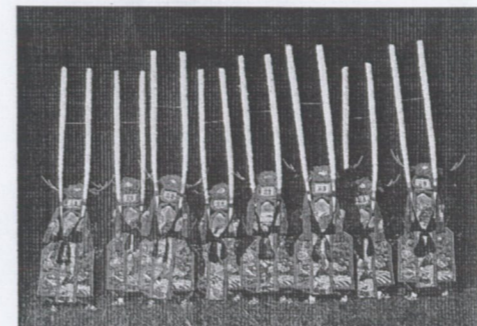
『菊の会創立 26周年記念誌』 間もなく完成

編集担当 高橋美鈴

菊の会創立26周年記念誌の編集が、着々と進んでいます。すでに写真撮影は完了しました。この本は、ある日、日本舞踊に出会った子供たちが、その美しさに魅せられ、入門し、稽古を重ねながら成長していくという設定で、その過程で出会う様々な場面を紹介しています。初めて着せてもらった着物、初めてのご挨拶・・・カメラは、そんな初々しい緊張から、成長し、自分で髪も結い上げ、舞台に立つところまで追いかけていきます。本を通して、日本舞踊を知らない方も共にその世界に足を踏み入れ、そこで出会う日本の心、日本人の感性の素晴らしさを再発見していただければというのが願いです。もちろん公演メンバーの演技も写真ならではの斬新なカットで紹介いたします。



「野山の踊り」



「獅子躍り」

京都、嵯峨野の竹林で撮影した畑道代の『乙女竹』は、その幻想的な美しさに観光客も足を止めて、美の世界を堪能していました。台風を押さえながら銚子の海で撮影した『和太鼓』は、さながら日本海の荒波のようでした。また、深夜に及ぶ撮影でも、最後まで姿勢を崩さず、きちんと演技してくれた小さなモデルさん達には、スタッフ全員がシャッポを脱いだくらいです。本は、今春完成の予定。どうぞ、お楽しみに！！

花に舞い 月に舞い 雪に舞った '98



長唄「連獅子」

菊の会は「人は宝、生涯練磨」

春の自主公演

「雪月花に舞う」

PART I

へプログラム

第一部

長唄「石橋」(5人立)
長唄「藤娘」(5人立)
常磐津「釣女」

第二部

「菊の会」
舞踊選集
「散る桜」
「流れ」

狂言舞踊「身替座禅」



熱意で大成功の舞台となった

会館に於いて昼夜盛會に開催、18日には、菊の会が初めて稽古場をもった懐かしい荒川区で初めての自主公演を荒川区地域振興公社のお力を得て主催、荒川区の共催で行う事が出来た。

つづいて19日には、神奈川県横浜市の関内ホールで、これも又初めての神奈川県での自主公演を行う事が出来、多くの友の会会員の熱意で大成功の舞台となった

満25周年を記念しての、この公演はまづ4月3日、4日、志木市民会館で行われた。公演前日、折りから桜花爛漫の月の夜にははらと雪が降り地元関係者は自然界も雪月花を舞っていると感激、お陰で当日も大成功の舞台となった。



長唄「乙女竹」

秋の自主公演

菊の会

「日本のおどり」

11月26日志木市民会館で盛大に初日の幕を開けた。続いて28日に川越市民会館12月1日新宿文化センター、4日所沢市民文化センター、6日に日野市民会館、8日越谷コミュニティセンター、9日江戸川総合文化センター、とい

ずれも昼夜の公演を行い無事盛會裡に終了した。プログラムは序幕に藤舎名生、林英哲作曲による笛と太鼓による組曲「黒潮」を男女20名の素踊りで開幕した、杉昌郎作、今藤政太郎作曲、畑道代振付、長倉綱美術による「乙女竹」に畑道代が出演、次いで狂言舞踊「身替座禅」。

春に公演した「藍の女」が御好評を頂き、秋にも再演と成り、八瀬では初めて「京都民音」の後援で行わせて頂いた。今年若葉の頃の5月27日



「散る桜」を踊る、畑道代

京都八瀬公演

舞踊劇

「藍の女」

れのように、いづれも各地熱い御支援に支えて頂いての公演で出演者一同全力で取り組み好評を博す事が出来た。



舞踊劇「藍の女」

「古都」「ありがとう雑物語」「吉田松陰」「うたまる」「獅子の時代」「川の流

(目) 秋は11月11日(木)から14日(日)までいづれも昼夜公演で行われる予定。

尾上流 五十周年 記念公演

尾上流50周年記念公演が7月29日、30日と新橋演舞場に於いて盛大に行われた。50周年にふさわしく歌舞伎界の錚々たる方々、又各宗家、家元が出演され、尾上流らしい格調の高さと斬新さに富み、最近にない素晴らしい会だった。

東京アトリエ公演

「花筏」

はないかだ

5月22日〜24日、6月19日〜21日の6日間、昼夜12回公演

引き続き行われた東京でのアトリエ公演は友の会の会員を初め、遠方から又、近隣から連日満員の盛況の中、次のプログラムで行われた。

大和楽「たけくらべ」美登利役には渡辺伸子、青木有子、土屋明日香のダブルキャスト。「樋口一葉」は代表の畑道代が踊り、いづ



舞踊劇「藍の女」

泰子、が演じ、この作品のもつ洒落た世界に挑戦、難曲を懸命に熟演し好評を博した。

いる。「日本人としてこの『蝶々夫人の悲劇』を再構築し真の日本女性の美しい魂を描き新たな視点

東京新聞主催 第五十五回 『全国舞踊コンクール』

東京新聞主催、第55回全国舞踊コンクールの予選が3月17日黒川公会堂で、又本撰は4月19日日比谷公会堂に於いて行われた。その結果1位「汐波」井下泰子、2位「吉野山」枝木茂、3位「おぼろ月」渡辺伸子と上位3位を菊の会で独占する事が出来た。加えて一位には、文部大臣奨励賞

力の限り



清元「熊野」

尾上菊乃里(代表)畑道代は「熊野」を踊り、後見の小姓に武藤強志がしっかり舞台をつとめた。

禪一は山蔭右京を鶴岡泰重、奥方玉の井を原聰、太郎冠者を枝木茂待女千枝に中山幸子、小枝に井下

畑道代と 菊の会メンバー32名出演

日本人の為の日本のバレエ創作の活動で知られる鬼才・横井茂の台本演出振り付けによる「冬の蝶」の公演が10月23日から25日まで東京グローブ座で行われた。横井茂はプログラムにこう書いて

東京バレエグループ公演 「冬の蝶」 (蝶々夫人)

新井雅子、安達悦子、三谷恭三、等が見事に華麗な舞台をみせた。その中で代表の畑道代が艶やかな芸妓姿で踊り、菊の会メンバーが祭りの場面で迫力ある太鼓の男性の踊りと女性の美しい踊りを展開した。



東京バレエグループ公演 「冬の蝶」のラストシーン

沢山の人達からも祝福されていた。これからはその期待にどう応えていくか楽しみである。

都知事賞、みやこ賞、が授与された。幼い頃から、又、遠い所からそれぞれが通い、苦しい事乗り越えての受賞だけに、